

平成16年3月3日
(社)日本物流団体連合会

施設見学会を開催（横浜港諸施設）

(社)日本物流団体連合会は平成16年3月2日、スーパー中枢港湾についての港湾管理者の取り組み、国際物流特区の現状、国際静脈物流システム構想といった視点から、横浜港諸施設の見学会を開催しました。会員企業・団体から約40名の出席者がありました。

まず大黒埠頭の自動車輸出埠頭、コンテナ埠頭等を概観し、随所で変貌しつつある横浜港頭地区などについても説明を受けました。

続いて昨年5月に事業が開始された「リサイクルポート山ノ内」の現場見学を行いました。横浜市では平成15年1月の「横浜G30プラン」を打ち出し平成22年度のごみ排出量を平成13年度実績に対し30%削減しようとする計画が策定されており、港湾の活用計画とが相まって古紙、古着などリサイクル資源を中国などに輸出する拠点として整備されたとのことでした。

次に日本を代表する高規格コンテナバースである南本牧を見学しました。横浜港のコンテナ取扱量の40%を占めるとのことでしたが、当日は最大級のコンテナ船が接岸し、巨大なガントリークレーンによる積み下ろし作業を間近から見学することができました。また、廃棄物の最終処分場としての埋立地は、国際静脈物流拠点の集積地として整備構想があるとのことでした。

最後に本牧埠頭BC突堤を視察しました。同埠頭は国際競争力強化が標榜されるなか、コンテナ船の大型化への対応、ターミナル能力の増強等を図るため急ピッチで建設が進められており、今春にはその一部が供用されるとのことでした。完成時は南本牧の規模を超えるとのことでした。

今回は定員を大幅に超える申込があり、会員企業・団体の関心の高さがうかがえる見学会でした。

写真がご入用の場合は、事務局までご連絡ください。

担当 乾・慶谷
電話 03-3593-0139